

Title	明治初期の地圖と慶應義塾
Sub Title	
Author	會田, 倉吉(Aida, Kurakichi)
Publisher	三田史学会
Publication year	1954
Jtitle	史学 Vol.27, No.2/3 (1954. 5) ,p.389(487)- 390(488)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑報 慶應義塾史研究特輯
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19540500-0389">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19540500-0389</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 明治初期の地圖と慶應義塾

地圖の上にみられる慶應義塾に關しては、さきに河北辰生助教授による「東京府内區分繪圖」、「地圖と慶應義塾」の二つの記事が本誌第二十六卷第一・二號（一九五二・一月）余白録に掲載された。前者は明治三年夏、義塾がまだ芝新錢座にあつたころのもので、「この圖はおそらく江戸東京の地圖で、福澤諭吉及び慶應義塾の所在を示した最古の地圖ではあるまいか。」（同書、七六頁）といわれ、後者は明治四年義塾の三田移轉後より二十年迄の間に於ける東京市街圖三十一點についての調査で、うち義塾名の記載がある地圖九點がそこに紹介されている。

ところが、後者の三田時代における義塾名記載の地圖として、その後さらに次の六點が眼にふれたので、ここに追加しておきたい。

- 1 明治東京全圖 刊記なし
- 2 大倉孫兵衛編開明東京新圖 刊行年月日なし  
市原正秀著 明治九年第二大區地圖  
朝倉寛校訂
- 3 井上茂兵衛刊開明東京區分御繪圖 明治九・一〇・二五出版  
明治一〇・一・一〇出版
- 4 大倉四郎兵衛編繪入東京御繪圖 明治一四・六・二五免許  
東京繪圖 明治一六・四・一五御届
- 5 同編
- 6 同編

雜報

右のうち、3は「芝區誌」（昭和一三・三・三一、東京市芝區役所編）三八八頁所載のもので、原本を知らないが、九小區の部に明らかに「福澤諭吉 慶應義塾」とあり、4は明治九年九月九日御届で、3と前後し、區分毎に色別けたもの、二大區九小區に「慶應義塾」とみられる。それから、5、6は共に前掲の本誌二六卷一・二號に既に載つた「大倉四郎兵衛編 東京繪圖 明治十五年」（同書、一〇〇頁）と同じ編者に成り、それと系列を等しくするが、1、2は惜しいことに刊行年月日を缺く。しかし、推定によれば、これらの圖は次の理由で明治七、八年ごろ乃至それに續く一、二年後ぐらいのものと思われ、河北助教授のあげた「松浦宏編 東京大小區分繪圖第四號 明治八年」他二、三（前掲書、一〇〇頁）に匹敵するといつていいのではあるまいか。

まず、この兩圖は共に六大區制に基ずく地域區分によつており、それが東京では明治四年から同十一年まで施行されていた以上、二つながらその間の刊行になることは容易にうかがえよう。のみならず、兩圖とも鐵道が記入されているから確かに明治五年以後であるし、同じく圖中「開成學校」の名がそのまま出ているのを以てすれば、同校が東京醫學校と合して東京大學となつた明治十年四月以前のものであることがわらう。また、これも兩圖にそのまま出ている「工學寮」は明治十年一月十一日工部省工作局に屬して工部大學校と改稱しているから、これにより少くとも

それ以前であろうことも察せられよう。そこで、さらに圖中の記載を検討してみると、前圖に載っている學校として、二大區九小區の「慶應義塾」は別として、二大區一小區に「工學寮」、四大區一小區に「開成學校」、同二小區に「外國語學校」、「女學校」、同五小區に「史ハン學校」、「女師ハン學校」その他があり、これらの中から最も新しいのが女子師範學校で明治七年三月の創立、翌八年十一月二十九日に開校している。したがつて、この記載があるからには當然それ以後のものでなければなるまいけれど、ただ、そこに創立と開校との間に少しくはばがあり、その間明治七年十二月二十七日外國語學校から分離して出來た東京英語學校(舊一高の前身)が記されていないのは、大體本圖がこの前後になるものといえなからうか。そして、後圖の場合もやはり女子師範の記載があつて、それ以後の刊行とは知れるが、これでは前圖の二大區八小區に「教育所」とあるものがその邊一帯廣く「勸業寮御用地」とあつて、その點明治九年の圖と同じになつてゐる。

なお、後圖には二大區九小區に「慶應義塾」と正しく出ていて、その地内に「奥平」と、義塾創立者福澤諭吉の舊藩主の名もみえている。奥平は當主昌邁、明治十四、五年ごろ三代目芝區長などつとめて、明治十七年十一月二十六日三十才の若さでこの地に卒したのである。(二八、一一、一九) (會田倉吉)

### 三田校地拂下げの期日について

慶應義塾が芝新錢座から現在地の三田に居を移したのは明治四年三月のことであつた。この移轉の理由、経緯等の事情については「福翁自傳」がそれを詳らかに語つていたので省略しようが、はじめは土地は一萬千八百五十六坪を東京府から貸下げ、同所にある建物の方は七百六十九兩二分一朱で一切が拂下げられたといわれ、「慶應義塾五十年史」(八五頁)、「慶應義塾七十五年史」(四九頁)、「福澤諭吉傳」第一卷(七四五頁)等にその明治三年十一月附指令書が載つてゐる。

しかし、ここは元來島原藩の中屋敷であつたところで、福澤がそれを各方面に奔走し、一旦政府から島原藩に上地を命じて東京府のものとなさせ、あとで府から義塾の名儀人である福澤諭吉に貸下げることにして貰つたのであつた。したがつて、福澤にしてみれば、借地の間はいつ立退を命ぜられるかも知れない。なんとか速かにこれを買受けることにしたいと考へたのも當然であろう。それについて、「福翁自傳」はまた語つて曰く、

三田の屋敷は福澤諭吉の拜借地になつて、地租もなければ借地料もなし恰も私有地のやうではあるが、何分にも拜借と云へば何時立退を命じられるかも知れず、東京市中を見れば私同様官地を拜借して居る者は甚だ多い、孰れも不安心に違ひないと推